

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 4 月 1 日

事業所名 放課後等デイサービス プレミアム原

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		規定以上の広さを確保している。食堂やプレイルーム、個室があり、クールダウンを含む用途に合わせた部屋が完備されている。また、状況に応じパーテーションで区切り簡易用の個室を設置している。	個室の利用頻度が少ない。個室の使用をグループ活動等で増やしていく。
	2	職員の配置数は適切である	○		規定以上(規定児童指導員数+1名)の職員を配置している。	規定の児童指導員の配置を守り、安全な支援が出来るよう継続していく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		玄関の点字ブロックや階段の手すり、バリアフリートイレを完備している。	手すりなど配慮しているが活用されていない部分があるため、今以上に活用していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎日、出勤スタッフ全員でミーティングを行っている。一日の流れ(計画)を打ち合せし、振り返りによりチェック、改善に繋げている。	毎日ミーティングを行っているが、長期休暇(夏・冬・春休み)中は短時間になっている。時間を捻出したり、打ち合せ準備を綿密にするなど工夫し引き続き取り組んでいく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		アンケートが提出し易いように無記名でアンケートを実施し、返信封筒を同封のうえ配布している。改善案を含む集計結果をホームページで公開している。	期日が近くなるとメールで呼びかけているが、全員の回収が出来ていないことが、課題である。呼び掛けに段階的なアプローチをして回収率を上げていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページで公開している。	保護者様に関心を持ってもらえるように口頭、会報(事業所新聞)等でアピールしていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		毎月のデイチェック(挨拶・支援・清掃・感染対策)を行い改善に繋げている。	毎月の全体会議にて評価結果の報告やミーティング時で提示し改善を図り、今後も継続していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		毎月テーマ(感染・虐待等)を決め内部研修を実施している。	机上の研修だけでなく、実践研修(シュミレーション)を増やしていきたい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		担当者会議の参加や定期的モニタリングを行い、支援会議を行ったうえで個別支援計画書を作成している。	普段からの保護者様との関わりを今以上に深め、保護者様のニーズを把握することに努めていく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		標準化したアセスメントシートを使用している。また、必要に応じ更新している。	児童発達支援管理責任者以外のスタッフがアセスメントシートを見る機会をもっと増やしていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		利用者様の現状や課題を話し合い、活動プログラムに反映させている。	毎日のミーティングでスタッフ全員が発言しやすい環境作りを今後も行っていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		毎月、活動表を作成し、季節や月に関する内容を取り入れている。また、活動が曜日による固定化がならないようにしている点や保護者様からのニーズを反映した活動も取り入れている。	保護者様のニーズを今以上に取り入れていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		過ごす時間に応じて活動内容を変えて計画をしている。また、長期休暇時にはスキルタイムを設けている。	長期休暇などは、普段できない大がかりで時間のかかるテーマなども取り入れていきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		利用者様の状況や内容に応じて個別や小グループ、集団に分けて作成している。	PDR(歩行トレーニング)やその他の集団活動において、ノンバーバルな活動を取り入れていきたい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日のミーティング内で打ち合わせを行っている。活動内容の再確認や進め方、スタッフの配置等を細かく話し合っている。	打ち合わせでは、必要に応じシュミレーションを行い、本番でもしっかり支援できる標準準備している。今後も続けていきたい。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎日のミーティング内で振り返りを行っている。子どもの状況や様子、課題、改善点、改善案を話し合い情報共有している。	必ず振り返りをして改善案を吟味し、迅速に改善出来るように努めていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		利用者様個々の支援目標に沿って毎日記録を行い支援に繋げている。	記録を残し改善策を話し合っている。会議が長引いてしまわないよう時間、管理を徹底していきたい。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		6か月内にモニタリングを行っている。その際、個別支援計画の継続、修正を行っている。	児童発達支援管理責任者による見直し等はしっかり行っている。ミーティングで今後も内容を確認しながら行っていく。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		ガイドラインの総則の基本活動(自立支援、成功体験、創作活動等)を組み合わせで行っている。	地域交流に関してはコロナのため、自粛していたが、今後増やしていきたい。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		適任者が参画している。会議後、議事録を作成しスタッフ間で共有している。	今後もミーティング等で他の支援員にも周知し、特性把握などに努めて適任者を増やしていきたい。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		年間計画や行事予定、下校時刻等の情報はホームページより得ている。時刻変更の際は保護者様や担任よりその都度伝えてもらうようにしている。	変則的な下校時間の際は事前に調べるようにしているが、トラブルが起きた場合にすぐに連絡が取れる状態にしておくため、保護者様にも呼びかけていきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		発作等のある子どもに対しては主治医、病院名を記載してもらい、対応法は保護者と話している。	医療的なケアが必要な利用者様はいないが、万が一の場合に備えて普段より情報収集に努めていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○	小学校低学年の受け入れが少ないため、行っていない。アセスメントや併用先の事業所等に対応法、現状、以前のことなど尋ねて情報を共有している。	保護者や他サービス事業所との情報共有は引き続き行っていきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		保護者様の同意のもと実施している。また、卒業前の相談事業所からのモニタリングや担当者会議の内容を共有している。	生活介護、就労施設等には保護者様の同意のもと情報を共有しているが、申し出がない所に関しては少ない情報しか提供していないため呼びかけていきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		必要に応じてケース会議などを行い、学校や機関センターの助言を受けている。	利用者様の状態によっては学校や機関を通して会議に参加するようにしている。今後も続けていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	行っていない。	今年度よりコロナが5類となったため、地域交流を企画したい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○	行っていない。ホームページ等で確認は行っている	ゴミ拾い等を企画して練習している。また、地域のイベント参加への企画を検討している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		担当者会議や送迎時、連絡帳、電話等で共有している。	困っていることや課題などモニタリング以外でも保護者様から情報を得るようにしている。引き続き努めていく。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	行っていない。	ペアレントトレーニングは行っていないが、必要に応じて案内はしていきたい。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時、運営規定や契約内容を説明し確認している。	契約時には必ず説明しているが、定期的に保護者に開示していきたい。また、説明確認シートの作成・利用を検討していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		その都度実施し、支援方法に反映させている。	調べることがあれば調べて回答、支援が必要であればミーティングでも話し合うようにしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		今年度は11月に保護者会を実施している。	要望があれば個別面談の実施も検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情対策委員会を発足し、保護者様からの苦情に対して迅速に対応できる体制を整えている。苦情の際の電話番号を契約時に渡し、玄関入り口にも設置している。	保護者様に周知してもらうため、定期的に会報(事業所新聞)での告知も検討していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月、事業所新聞を発行している。新聞内で毎月の行事予定や活動内容、利用者様の様子などがわかるようにしている。	お知らせやお願いなど会報等で伝えていくが、大切なことは併せて送迎時にも伝えていくため継続して行っていく。
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報の書類については、鍵付きのキャビネットに保管し、注意して取り扱っている。また、同意書を得て、新聞などの写真掲載を行っている。	ファイル等整理し、今後も管理を怠らないよう継続していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		メールや電話が24時間つながるようにしている。	電話が苦手な保護者様の場合もメール等の手法を用いて意思疎通できるように今後も配慮を続けていきたい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	行っていない。	バザーなどを行い、地域住民との関わりを図ってきたい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		マニュアル一覧を策定し、定期的に研修を行っている。	保護者様にはなかなか周知浸透できていないのが課題であるため、会報でのアピールを検討していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎月利用者様を交えて避難訓練を行い、外部からも年2回来てもらい職員のための研修もやっている。また、9月には3事業所合同で水害避難確保計画に基づき避難訓練を行っている。	新聞等で報告することにより、以前よりは周知できるようになってきたため今後も続けていきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待対策委員会を発足し、委員会内で行った内容を各事業所で研修を行い、意識の向上に努めている。	定期的に行っているが、各スタッフが研修を実施する側になり、個々の意識をより高めていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		契約時、保護者様に説明をしている。やむを得ず身体拘束を行わなければならない場合は保護者様に説明し、その都度ミーティング用紙に記載するようにしている。	利用者様に危険が伴う場合にはやむを得ず身体を拘束することがあり、その旨保護者に伝えている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アセスメントシートへの記載や契約時確認を行い対応している。	保護者様に確認し、アレルギーの対処をしていく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		毎月ヒヤリハットによる事例検討会を行い、共有している。	検討会を行う事により、より具体的な改善案が出るようになり、今後も継続していく。